

1 「ICT活用中核教員育成研修」のねらいと背景

飯田市の状況(令和元年度)

- ・ 飯田市の教育用コンピュータ 1 台当たりの児童生徒数は「約 6 人」(令和 2 年 3 月)
- ・ 一斉休校時にオンラインでの対応ができたのは「極小規模校の数校のみ」

飯田市の新たな取組

- コロナ第 2 波、第 3 波に備え、1 日でも早く学習者用端末 1 人 1 台環境を整備するとともに、市内小中学校に勤務するすべての教員が『同じ目標を持って取り組む』研修の仕組みを整え、すべての教員のICT活用指導力向上を図る。
- 市内各校において、ICT活用指導力向上に向けた取組の中核を担う人材を育成する。

中心的な取組として

信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センターの遠隔での指導による
『飯田市ICT活用中核教員育成研修』を実施

飯田市ICT活用中核教員

- ・ 自校のICT活用推進の中核を担い、校内研修実施を中心に、情報提供、自校職員への声かけ、アドバイス等により、中核教員育成研修で学んだ内容を自校のすべての教員に伝達し、授業等でICT活用を広める。
- ・ 各校 1 名、ICT活用が得意な教員というよりは、自校職員に伝える・広めることができる影響力をもつ教員を中心に選出依頼。若手・中堅・教務主任等、様々な段階の教員が研修に取り組んだ。

2 飯田市ICT活用中核教員育成研修

1 趣旨

令和2年度内に予定されている学習者用端末1人1台環境を活用し、緊急時においても児童生徒が学校・教師・仲間とのつながりをもちながら取り組める学習活動の展開を目指し、ICT活用中核教員の育成に取り組む。

2 講師 信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター 佐藤 和紀 先生

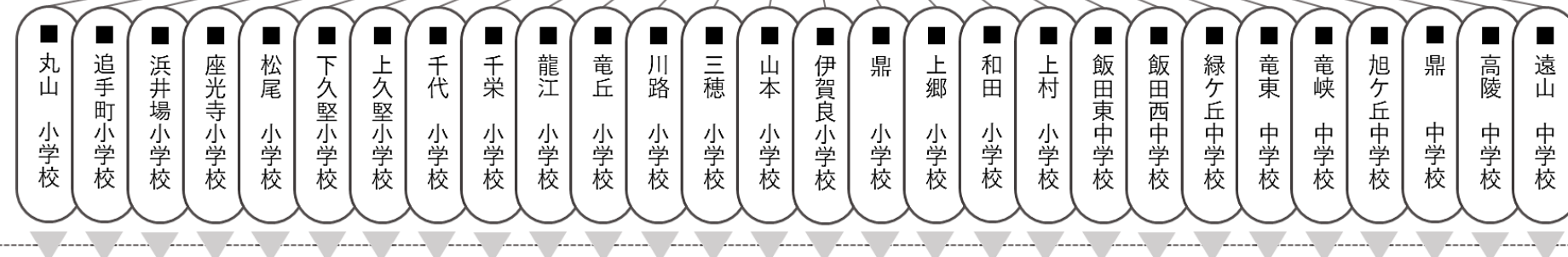
3 対象者 各学校長より飯田市ICT活用中核教員として推薦された教職員

4 日程 ■研修Ⅰ-① 8月27日(木) ■研修Ⅱ 10月13日(火)
■研修Ⅰ-② 8月28日(金) ■研修Ⅲ 12月1日(火)

R2年度 飯田市『ICT活用中核教員育成』研修（信州大学遠隔教育事業）

飯田市内全28校

信州大学によるWeb会議システムを使った遠隔研修（年内に計4回実施予定）

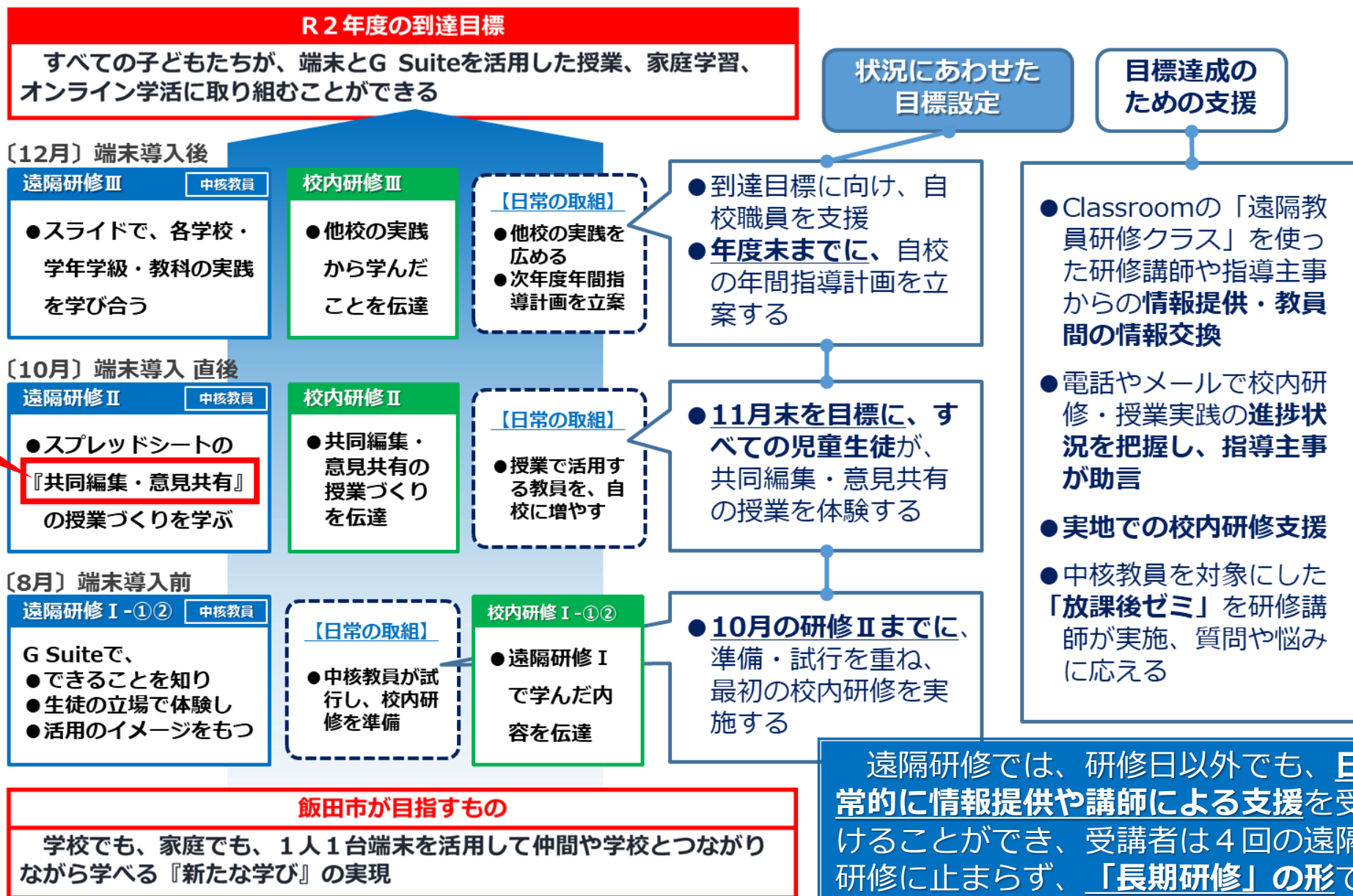


遠隔による
ICT活用中核教員の育成

校内研修等による
全職員への伝達

市内全校でのICT活用研修実施による「すべての教員」の指導力向上を目指す

3 状況にあわせた目標設定と連続性を重視したICT活用中核教員育成研修



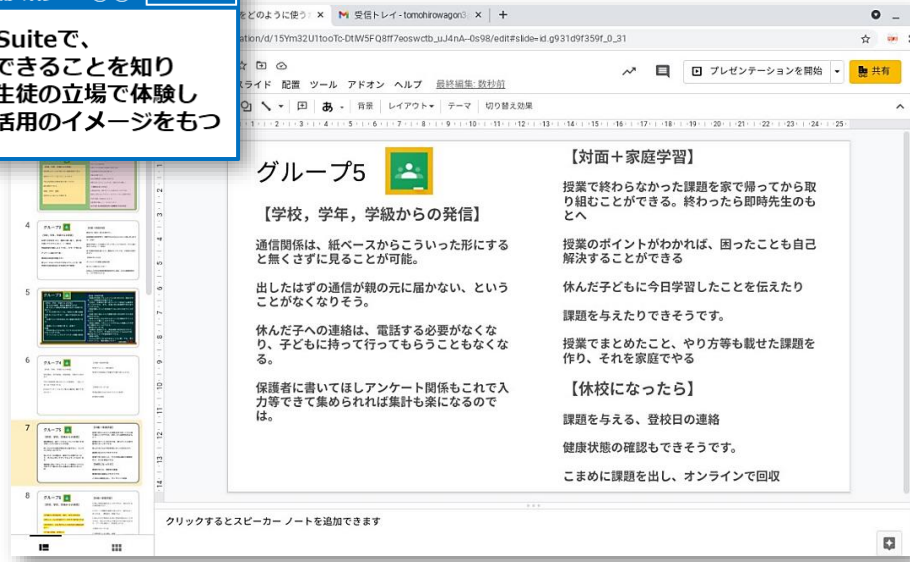
4 遠隔研修の様子

〔8月〕端末導入前

遠隔研修Ⅰ-①② 中核教員

G Suiteで、

- できることを知り
- 生徒の立場で体験し
- 活用のイメージをもつ



〔演習『Classroomをどのように使うか』：Googleスライドによる共同編集と意見共有の様子）

〔10月〕端末導入 直後

遠隔研修Ⅱ 中核教員

- スプレッドシートの『共同編集・意見共有』の授業づくりを学ぶ



〔研修Ⅱの様子：教室に設置されている電子黒板と接続用PCを使用して、複数の教員が参加した学校〕

〔12月〕端末導入後

遠隔研修Ⅲ 中核教員

- スライドで、各学校・学年学級・教科の実践を学び合う

※発表されたすべての事例は、Classroomの「遠隔教員研修クラス」上で、市内全校が共有

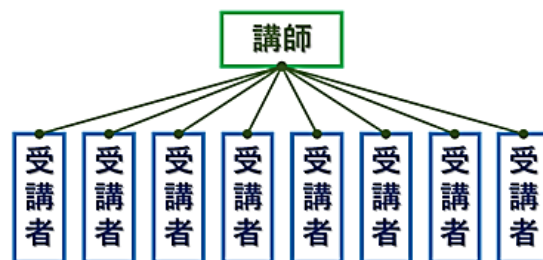


〔演習『Googleスライドによる実践紹介と今後の方向性の検討』Zoomブレイクアウトルーム・画面共有機能とGoogleスライドを使用した実践共有とグループディスカッションの様子）

5 遠隔研修の効果を感じた具体的な研修方法

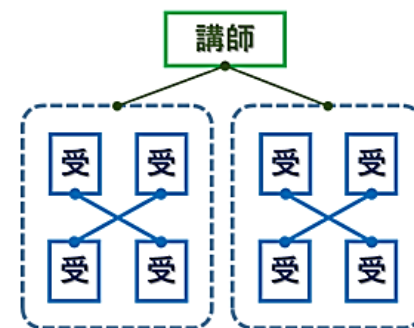
【手立て1】

- 講師と受講者を1対1でつないだ
- 『直接講義』



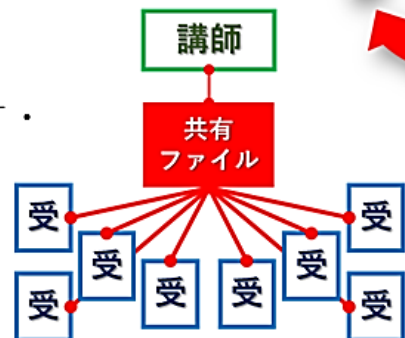
【手立て2】

- ブレイクアウトルームで、受講者同士をつないだ
- 『グループディスカッション』



【手立て3】

- 共同編集による意見共有・意見交換など
- 『体験を重視した演習』



【場面に応じて手立てを組み合わせる】

- 必要な『知識を得る』
 - ・ファイル共有しながら直接講義を受ける
- 子どもの立場で『体験する』
 - ・直接講義の中で共同編集をする
- 教師の立場で『検討する』
 - ・共同編集をしながらグループディスカッションをする
- 中核教員の立場で『深める』
 - ・ファイルを共有しながら実践発表する
 - ・グループディスカッションの成果を共同編集した共有ファイルで報告する

【実感した効果】

- 一方的な講義を受けるのではなく、3つの手立てが組み合わされた内容であったため、受講者は自然とスキルを向上させながら受講することができた。
- 様々な手立てが組み合わされた内容で受講すること自体が、校内研修の実施や授業づくりのイメージを明確化することにつながった。

6 研修実施側の立場として、本研修より学んだこと

遠隔教員研修Ⅰ 中核教員

佐藤先生の指導により、G Suiteで、

- できることを知り
- 生徒の立場で体験し
- 活用のイメージをもつ

〔8月27日,28日〕

- ・ICTが苦手な先生方も本校にはいるのですが、今回の研修を伝えられるかが不安です。
- ・G Suiteなどを実際に使うときにほかの先生の支援をしていただけるとありがたいです。



遠隔教員研修Ⅱ

中核教員

子どもの立場で、佐藤先生の模擬授業を受けることで、

- 教師の発問に対して、子どもが考えをスプレッドシートに共同編集し、学級全体の考えを共有することから始める授業づくりを学ぶ

〔10月13日〕

まだまだG Suiteの使い方でわからないところがあるので、佐藤先生が話していたように子どもたちと一緒に体験しながら学んでいきたいと思いました。子どもたちの学びの幅が広がっていく可能性を持っているので同僚の先生方と協力して授業を考えていきたいと、今日の研修を終えて一層強く思いました。

遠隔教員研修Ⅲ 中核教員

スライドの実践紹介、佐藤先生の助言をもとに、

- 各学校・学年学級・教科の実践から学び合う

〔12月1日〕

タブレットが導入されて活用するにあたり、中核教員として自校の先生方へ研修することが正直不安でした。（中略）しかし、先生方自身が色々と研究していただき、活用方法を見出していただいたので、ありがたかったです。今回、聞くことができなかった他校の実践を自校でも実践することができればいいなと思います。4回にわたり研修していただきありがとうございました。

6 研修実施側の立場として、本研修より学んだこと

- 中核教員として自校のICT活用を推進することに対し、はじめは多くの先生方が不安を持っていたが「同僚職員の前向きな理解と協力」を得られたことが、中核教員自身の意欲的な取組の原動力となり、結果的に学校全体の取組がさらに進んだ、という学校も多い。そこにはもちろん、校長先生や教頭先生の働きかけや支えがあり、やはり学校と教育委員会が共通意識をもって取り組んでいくことは特に重要。
- どの教員にも得手不得手はあるし、教員間での温度差もある。しかし、各校の教員が一度試してみて「この位なら…」と思えるような「低めのハードル」から始め、時期や状況に合わせた「明確な目標設定」と継続的な支援を行えば、徐々に取組は広まっていく。

〔各学校での取組の様子〕 ※飯田市：小学校19校 中学校：9校 計：28校

G Suiteを使った 「 <u>共同・共有の授業</u> 」を…	10月26日	11月 4日	11月19日	12月 2日	12月 17日
① 『中核教員が』 実施した	1 5校	1 6校	2 4校	2 8校	2 8校
② 『他のクラス』 でも実施した	1 3校	1 4校	2 4校	2 8校	2 8校
③ 『全クラス』 で実施した	2 校	3 校	3 校	9 校	1 5校

ご清聴、ありがとうございました。